

建築構造学の発展と建築教育の国際化に対する貢献

名誉会員 柴田 拓二 君

柴田拓二君は、1957年に北海道大学工学部建築工学科に着任し、1993年に定年退官し、続いて北海道工業大学に招かれ、1998年に学長に就任するまでのちょうど50年間を、建築構造学の研究・教育に尽力した。この間、研究面では、とくに鉄筋コンクリート構造のせん断破壊機構の解明に優れた業績を残し、この研究によって1974年に日本建築学会賞（論文）を受賞している。我が国における鉄筋コンクリート構造のせん断に関する設計法は、この研究成果をもとに発展してきて現在に至っているものである。これに加えて、鋼構造・溶接工学・雪工学などにもすぐれた研究成果をあげ、それらに関連する学・協会において重要な役職を歴任するとともに、建築構造学全般の発展に大きく貢献した功績は、非常に大きい。

同君は、行政や諸団体などから、上記のような建築構造学の分野における優れた学識と経験および公正的確な判断力を信頼されて、多方面から協力を要請されてきた。国や地方自治体の建築行政においては、多くの審議委員会委員として、適切な施策を提案し、高層建築物のなどの建築構造設計に関しては、構造評定委員会委員として、先端技術であっても安全な構造であることの確認を行い、溶接やコンクリート製造などの国家技術資格に関しては、技術検定委員会委員として公正な判断を下すなど、我が国の建築行政と実務面における建築技術の向上にも、めざましい貢献をしてきた。

また、同君は日本建築学会を推薦母体とする日本学術会議会員を1991年から2期6年にわたってつとめ、工学における研究と高等教育のあり方を全国的・国際的な視点から審議して、適切な施策を積極的に提案した。さらに、工学技術資格の国際化を支える大学教育評価システムの構築を、日本工学教育協会の理事として全国規模で推進するとともに、本会においても、教育と資格特別委員会および建築教育連絡協議会の委員長として、この問題にいち早く取り組み、他の工学分野にも大きな影響を与えた。このように工学教育の国際化とその質の向上に貢献した功績はきわめて高く評価され、2004年に日本工学教育協会賞を受賞している。同君は、北海道工業大学の学長としても大学の教育・運営の第一線で活躍してきた。これらの業績を総合して、2007年に第一回の日本建築学会教育賞を受賞している。さらに、2008年の秋の叙勲において、瑞宝中綬章が授与されている。

同君は、本会においては、多くの研究調査委員会の委員長・委員をつとめたことに加えて、1987年からの2年間は、本会副会長として、学会の運営に心血を注ぎ、とくに創立以来100年以上の歴史をもつ学会の組織・運営を見直すために設置された基本問題検討委員会の委員長として、英断をふるい、学会の組織改革と会員の意識改革を成し遂げた功績は、非常に大きい。

以上のように同君は、建築構造学の発展と建築教育の国際化に対して、非常に大きな貢献をなしただけでなく、これに加えて、今日の本会が、建築界において重要な役割を担い、また国内外からも大きな期待と信頼が寄せられる地位を確立するために果たした役割も、またきわめて大きい。

よって、同君の功績に対し、ここに日本建築学会大賞を贈るものである。